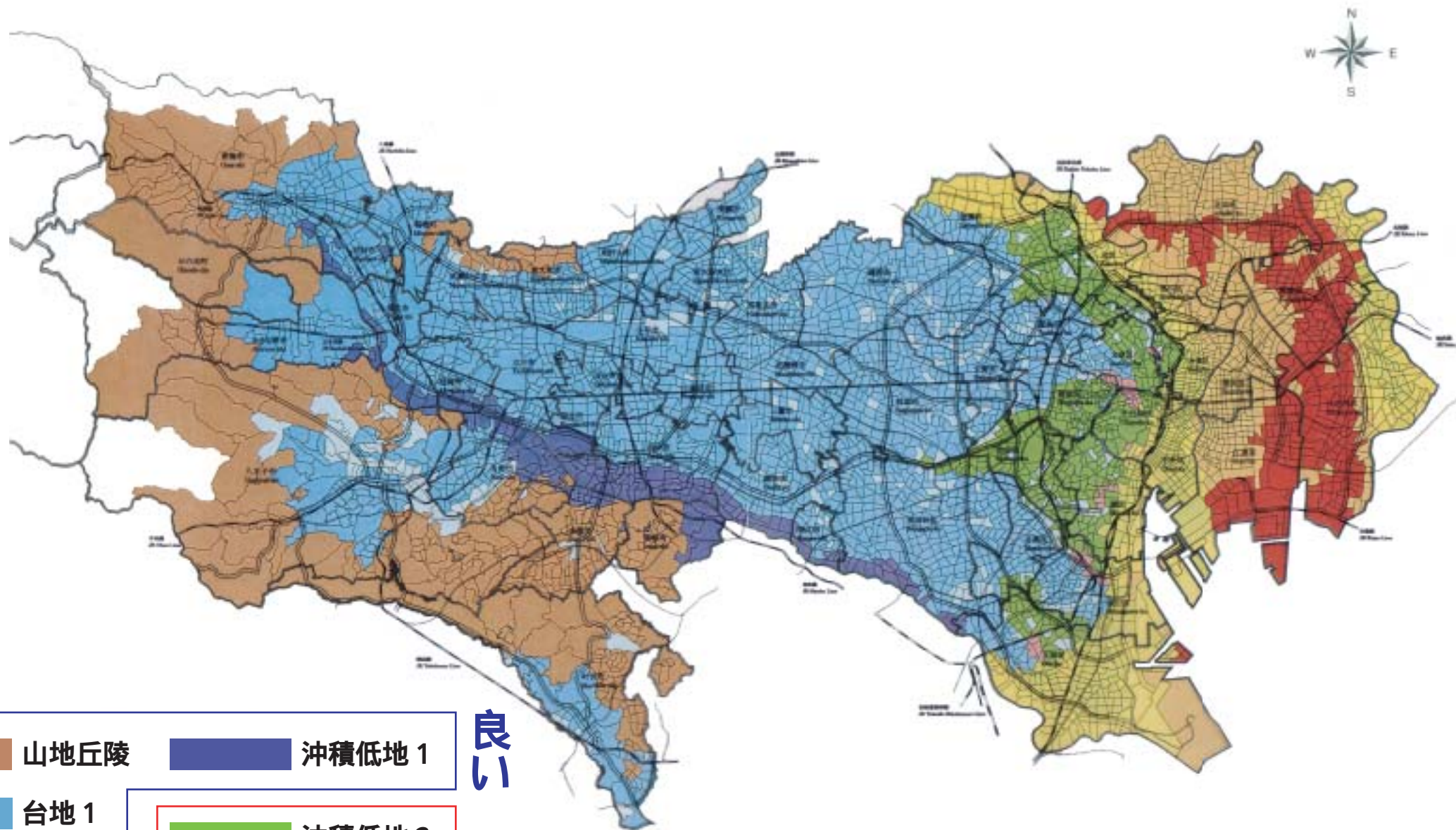


都内(一部地域を除く)の地盤について



山地丘陵	沖積低地 1
台地 1	沖積低地 2
台地 2	沖積低地 3
谷底低地 1	沖積低地 4
谷底低地 2	沖積低地 5

良い

悪い

地盤の特性

地盤分類	地震動及び地震被害に対する特徴
山地・丘陵	沖積低地等における地震基盤に相当する地層が地表付近に存在するため、他の地盤分類に比べると地震動の増幅は小さく、震源距離が同程度であれば被害は相対的に小さいと想定される。
台地 1	沖積低地に比べると地盤は固く、過去の被害地震時にも低地に比べて被害は少なかった。低地に比べて地盤の固有周期は短い傾向にある。
台地 2	表層に軟弱な層(未固結の粘土層等)が存在する地域であり、台地の中では相対的に被害が発生しやすいと想定される。
谷底低地 1	台地を刻む谷が沖積低地へと流下する出口に当たり、粘土やシルトからなる軟弱な堆積物が比較的厚く分布する。関東地震の際に、沖積低地における軟弱層の厚い地域と同様、被害が大きく発生した。
谷底低地 2	層厚は大きくないが、粘土やシルトからなる軟弱な堆積物が存在する。周辺の台地に比べると相対的に地震動による被害が発生しやすいと想定される。
沖積低地 1	多摩川の中流域であり、地盤は主に砂礫から構成されていることから、地震動による被害も比較的生じにくく、液状化による被害もほとんど発生しない地域である。
沖積低地 2	沖積低地の中でも台地よりに分布した軟弱な層がうすい地域であり関東地震でも建物被害が少なかったことから、沖積低地の中では、相対的に地震動による被害の発生しにくい地域である。ただし、液状化による被害は、沖積低地 3 や 4 , 5 と同等に発生する。
沖積低地 3	軟弱な層の厚さがやや厚い地域であり、沖積低地 2 に比べると地盤の固有周期は相対的に長く、地震動による被害も発生しやすいと想定される。
沖積低地 4	この分類の中で、2番目に軟弱層が厚い地域である。したがって、地盤の固有周期は、相対的に長い傾向があり、地震動による被害が発生しやすい。
沖積低地 4	古東京川の谷底に当たり、軟弱な層が厚く堆積していることから、地盤の固有周期は相対的に長い傾向にある。いわゆる「地盤の悪い」地域に当たり、地震動による被害が最も発生しやすい。